

**IBM WebSphere Commerce - Express
for Linux**



クイック・スタート

バージョン 5.5

**IBM WebSphere Commerce - Express
for Linux**



クイック・スタート

バージョン 5.5

ご注意!

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、45 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、WebSphere Commerce - Express バージョン 5.5、および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースに適用されます。製品のレベルに合った適切な版を使用しているをご確認ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典： GC09-7871-00
IBM WebSphere Commerce - Express
Quick Beginnings for Linux
Version 5.5

発 行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第 1 刷 2003 年 9 月

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 1996, 2003. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2003

目次

第 1 章 WebSphere® Commerce - Express

の紹介	1
本書の更新内容	1
本書の表記規則	2
デフォルトのインストール・パス	2
サポートされる Web ブラウザー	3
WebSphere Commerce - Express で使用される ポート番号	3
WebSphere Commerce - Express で使用される ロケール	4
ユーザー ID、パスワード、および URL の早 見表	6
DB2 Universal Database ユーザー ID の要件	8

第 2 章 インストール前の要件 11

知識に関する要件	11
前提条件となるハードウェア	12
Intel® プロセッサ・ベースのシステムで Linux を実行する場合の前提条件となるハ ードウェア	12
前提条件となるソフトウェア	12
Intel ベースのシステムで Linux を実行す る場合の前提条件となるソフトウェア	12
その他の要件	13
パス変数	14

第 3 章 推奨トポロジー 17

1 ノード・トポロジー	17
1 ノード・トポロジーでの WebSphere Commerce - Express のインストール	17
3 ノード・トポロジー	21
3 ノード・トポロジーでの WebSphere Commerce - Express のインストール	23
開発環境トポロジー	24

第 4 章 WebSphere Commerce - Express

のインストール	27
WebSphere Commerce - Express のインストー ルの前に	27

必要な WebSphere Application Server ユー ザーおよびグループの作成	27
高速インストールの完了	29
インストールの検証	34
WebSphere Commerce - Express インストー ル・ログ	34
DB2 Universal Database インストール・ロ グ	35
WebSphere Application Server インストー ル・ログ	35
WebSphere Commerce インスタンス作成ロ グ	36
次のステップ	37

第 5 章 WebSphere Commerce - Express

コンポーネント	39
WebSphere Commerce - Express、WebSphere Commerce Payments、または WebSphere Commerce 構成マネージャー・クライアントの アンインストール	39
WebSphere Application Server のアンインスト ール	39
IBM HTTP Server のアンインストール	40
DB2 Universal Database のアンインストール	40

第 6 章 情報の入手場所 41

WebSphere Commerce の情報	41
WebSphere Commerce オンライン・ヘルプ	41
WebSphere Commerce テクニカル・ライブ ラリー	41
WebSphere Commerce Payments の情報	41
IBM HTTP Server の情報	43
WebSphere Application Server の情報	43
DB2 Universal Database の情報	43
その他の IBM 出版物	44

特記事項	45
商標	46

第 1 章 WebSphere® Commerce - Express の紹介

本書では、単一のマシンに WebSphere Commerce - Express バージョン 5.5 の主要コンポーネントをインストールして構成する方法について説明します。対象となる読者は、システム管理者など、インストール作業と構成作業を実行する人です。拡張構成のシナリオの詳細は、「*WebSphere Commerce - Express インストール・ガイド*」を参照してください。

重要

特に断りがない限り、本書での *WebSphere Commerce* という表現は WebSphere Commerce - Express のことを指します。

WebSphere Commerce - Express Developer Edition のインストールおよび構成の手順については、「*WebSphere Commerce - Express Developer Edition インストール・ガイド*」を参照してください。

本書の更新内容

このインストール・ガイド、および更新版の PDF ファイルは、以下の WebSphere Commerce Technical Library Web サイトから入手できます。

<http://www.ibm.com/software/commerce/library/>

WebSphere Commerce - Express の追加情報については、以下の Web サイトをご覧ください。

<http://www.ibm.com/software/genservers/commerce/express/>

追加のサポート情報については、WebSphere Commerce サポート・サイトを参照してください。

<http://www.ibm.com/software/commerce/support/>

製品への最新の変更について知るには、WebSphere Commerce - Express CD に収録されている、更新された製品 README ファイルを参照してください。これは、以下の WebSphere Commerce Technical Library Web サイトからも入手できます。

<http://www.ibm.com/software/commerce/library/>

WebSphere Commerce バージョン 5.4 Professional Entry Edition があるシステムにインストールする場合は、「*WebSphere Commerce - Express マイグレーション・ガイド*」を参照してください。

余白にある改訂文字は、本書の前バージョン以降に更新された内容を示します。本書では、改訂文字として以下の表記を使用しています。

- "+" 文字は、本書の現在のバージョンで更新された内容を示します。
- "I" 文字は、本書の以前のバージョンで更新された内容を示します。

本書の表記規則

本書では、以下の規則を使用しています。

太文字	フィールド名、アイコン名、またはメニュー選択項目などのグラフィカル・ユーザー・インターフェース (GUI) のコントロール、またはコマンドを示します。
モノスペース (Monospace)	示されているとおりに入力するテキスト例、ファイル名、ディレクトリー・パスおよび名前を示します。
イタリック	用語を強調するのに使用します。また、実際のシステムに合わせて該当する値に置き換えることが必要な名前を示す場合もあります。

デフォルトのインストール・パス

本書でインストール・パスについて述べる場合、デフォルトのパス名として次のものを使用します。

WebSphere Commerce - Express バージョン 5.5	<i>WC_installdir</i>
IBM® DB2 Universal Database™ バージョン 8.1.2 Express Edition	<i>DB2_installdir</i>
IBM HTTP Server バージョン 1.3.26.2	<i>HTTPServer_installdir</i>
WebSphere Application Server バージョン 5.0.2	<i>WAS_installdir</i>

本書で、様々なインストール済み製品のインストール・パスを表す方法については、14ページの『パス変数』を参照してください。

サポートされる Web ブラウザー

WebSphere Commerce のツールとオンライン・ヘルプには、WebSphere Commerce のマシンと同じネットワーク上にあつて Windows[®] オペレーティング・システムが実行されているマシンにおいて、Microsoft[®] Internet Explorer 6.0 を使用してのみアクセスできます。Internet Explorer は、6.0 のフル・バージョン (Internet Explorer 6.0 Service Pack 1 およびインターネット・ツール) あるいはそれ以降に対して Microsoft による最新の重要なセキュリティー更新を適用したものを使用する必要があります。それより前のバージョンでは、WebSphere Commerce のツールが完全にはサポートされていません。

ショッパーは、以下のいずれかの Web ブラウザーを使用して Web サイトにアクセスできます。これらは、すべて WebSphere Commerce でテスト済みです。

- AOL 7 以降 (Windows 用)
- Microsoft Internet Explorer:
 - バージョン 5.5 以降 (Windows 用)
 - バージョン 5 以降 (Macintosh 用)
- Mozilla バージョン 1.0 以降
- Netscape バージョン 6.0 以降
- Netscape Navigator バージョン 4.6 以降

WebSphere Commerce - Express で使用されるポート番号

以下に、WebSphere Commerce またはそのコンポーネント製品によって使用されるデフォルトのポート番号のリストを示します。WebSphere Commerce 以外のアプリケーションでは、これらのポートを使用しないようにしてください。システムにファイアウォールが構成されている場合には、これらのポートがアクセス可能になっていることを確認してください。

ポート番号

使用するソフトウェア

- | | |
|-------------|--|
| 80 | IBM HTTP Server。 |
| 389 | Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) ディレクトリー・サーバー。 |
| 443 | IBM HTTP Server - セキュア・ポート。このセキュア・ポートは SSL が必要です。 |
| 1099 | WebSphere Commerce 構成マネージャー・サーバー。 |
| 2809 | WebSphere Application Server ブートストラップ・アドレス。 |
| 5432 | WebSphere Commerce Payments 非セキュア・サーバー。 |
| 5433 | WebSphere Commerce Payments セキュア・サーバー。このセキュア・ポートは SSL が必要です。 |

- 5557** WebSphere Application Server Internal Java™ Messaging Service サーバー。
- 5558** WebSphere Application Server Java Messaging Service サーバーの待機アドレス。
- 5559** WebSphere Application Server Java Messaging Service の直接アドレス。
- 7873** WebSphere Application Server DRS クライアント・アドレス。
- 8000** WebSphere Commerce アクセラレーター。このセキュア・ポートは SSL が必要です。
- 8002** WebSphere Commerce 管理コンソール。このセキュア・ポートは SSL が必要です。
- 8004** WebSphere Commerce 組織管理コンソール。このセキュア・ポートは SSL が必要です。
- 8008** IBM HTTP Server 管理ポート。
- 8880** WebSphere Application Server SOAP Connector アドレス。
- 9043** WebSphere Application Server 管理コンソールのセキュア・ポート。このセキュア・ポートは SSL が必要です。
- 9080** WebSphere Application Server HTTP トランスポート。
- 9090** WebSphere Application Server 管理コンソール・ポート。
- 9443** WebSphere Application Server HTTPS トランスポート・ポート。
- 9501** WebSphere Application Server セキュア・アソシエーション・サービス。
- 9502** WebSphere Application Server 共通セキュア・ポート。
- 9503** WebSphere Application Server 共通セキュア・ポート。
- 50000** DB2® サーバー・ポート。
- 60000** 以上
DB2 TCP/IP 通信。

WebSphere Commerce - Express で使用されるロケール

WebSphere Commerce では、有効な Java のロケールだけが使用されます。使用する言語に該当するロケールがシステムにインストールされていることを確認してください。また、ロケールに関係するすべての環境変数には、WebSphere Commerce でサポートされているロケールを含めるようにしてください。以下の表は、WebSphere Commerce でサポートされるロケール・コードを示しています。

言語	ロケール・コード	LC_ALL 値
ドイツ語	de_DE	de_DE

言語	ロケール・コード	LC_ALL 値
英語	en_US	en_US
スペイン語	es_ES	es_ES
フランス語	fr_FR	fr_FR
イタリア語	it_IT	it_IT
日本語	ja_JP	ja_JP
韓国語	ko_KR	ko_KR
ポルトガル語 (ブラジル)	pt_BR	pt_BR
中国語 (簡体字)	zh_CN	zh_CN
中国語 (繁体字)	zh_TW	zh_TW

注: SuSE Linux Enterprise Server 8 オペレーティング・システムは、繁体字中国語 (zh_TW) ロケールをサポートしません。

ロケールを判別するには、使用する Linux ディストリビューションに応じて、以下のコマンドのいずれか 1 つを実行します。

Linux ディストリビューション	コマンド
Red Hat	echo \$LANG
SuSE	echo \$LC_CTYPE

使用するロケールがサポートされていない場合には、使用する Linux ディストリビューションに応じて、ルート・ユーザーとして次のコマンド・セットのいずれかを実行することによって、ロケールのプロパティーを変更してください。

Linux ディストリビューション	コマンド
Red Hat	LANG=xx_XX export LANG
SuSE	LC_CTYPE=xx_XX export LC_CTYPE

xx_XX は、上記の表に示されている 4 文字のロケール・コードです。大文字小文字の別は、表のとおりでなければなりません。

ユーザー ID、パスワード、および URL の早見表

WebSphere Commerce 環境での管理には、さまざまなユーザー ID が必要です。それらのユーザー ID と、それに必要な権限のリストを、次の表に示します。各 WebSphere Commerce ユーザー ID ごとにデフォルトのパスワードを示しています。

ユーザー ID	デフォルト値	注
DB2 ユーザー	適用されない	<p>これは、DB2 データベースを管理するために、インストール時に作成されるオペレーティング・システム・ユーザー ID です。これは DB2 コマンドの実行時、および DB2 サーバーの開始時や停止時に使用する必要があります。</p> <p>このユーザーは、8 ページの『DB2 Universal Database ユーザー ID の要件』で概説されている DB2 ユーザー ID の要件を満たしていません。</p>
構成マネージャーのユーザー ID	構成マネージャーのデフォルト・ユーザー ID およびパスワードは、webadmin および webibm です。	構成マネージャー・ツールのグラフィカル・インターフェースを使用すれば、WebSphere Commerce の構成方法を変更できます。構成マネージャーには、WebSphere Commerce マシンからアクセスすることも、グラフィカル・ユーザー・インターフェースをサポートし、構成マネージャー・クライアントがインストールされている、WebSphere Commerce マシンと同じネットワーク上の任意のマシンからアクセスすることもできます。

ユーザー ID	デフォルト値	注
WebSphere Commerce サイト管理者	適用されない サイト管理者 ID とパスワードは、高速インストールの一部として作成されます。	<p>サイト管理者ユーザー ID とパスワードは、以下の WebSphere Commerce ツールに適用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> WebSphere Commerce アクセラレーター。 WebSphere Commerce アクセラレーターにアクセスするには、WebSphere Commerce マシンと同じネットワーク上にある Windows マシンで Internet Explorer をオープンして、以下の URL を入力します。 <code>https://host_name:8000/accelerator</code> WebSphere Commerce 管理コンソール。 WebSphere Commerce 管理コンソールにアクセスするには、WebSphere Commerce マシンと同じネットワーク上にある Windows マシンで Internet Explorer をオープンして、以下の URL を入力します。 <code>https://host_name:8002/adminconsole</code> WebSphere Commerce 組織管理コンソール。 WebSphere Commerce 組織管理コンソールにアクセスするには、WebSphere Commerce マシンと同じネットワーク上にある Windows マシンで Internet Explorer をオープンして、以下の URL を入力します。 <code>https://host_name:8004/orgadminconsole</code> <p>WebSphere Commerce では、ユーザー ID とパスワードが次の規則になっていることが必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> パスワードの長さは最低 8 文字。 パスワードには、少なくとも 1 つの数字が含まれなければなりません。 パスワードには、少なくとも 1 つの英字が含まれなければなりません。 パスワードには、同じ文字が 4 回を超えて出現してはなりません。 パスワードには、同じ文字を 3 回を超えて繰り返すことはできません。

ユーザー ID	デフォルト値	注
WebSphere Commerce Payments 管理者	WebSphere Commerce Payments をインストールする時点で、WebSphere Commerce サイト管理者 ID に WebSphere Commerce Payments 管理者役割が自動的に割り当てられます。	WebSphere Commerce Payments 管理者役割が割り当てられているユーザー ID では、WebSphere Commerce Payments の制御と管理が可能です。
root 以外のユーザー ID	n/a	WebSphere Commerce をインストールする前に、この ID を作成する必要があります。この ID は、WebSphere Commerce のいくつかのコンポーネントを管理するために使用されます。以下のサーバーとツールは、この ID で実行する必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> • WebSphere Commerce アプリケーション・サーバー • WebSphere Commerce Payments アプリケーション・サーバー • WebSphere Commerce 構成マネージャー • デフォルトの WebSphere Application Server アプリケーション・サーバー — server1
root	root	このユーザー ID は、WebSphere Commerce のインストール時に必要です。これは IBM HTTP Server の開始時や停止時にも使用する必要があります。

DB2 Universal Database ユーザー ID の要件

DB2 では、データベース管理者およびデータベース・ユーザーのユーザー ID とパスワードは次の規則に従う必要があります。

- 長さは 8 文字以下です。
- 大文字を含めることができません。
- 使用できる文字は a ~ z、0 ~ 9、@、#、\$、および _ だけです。
- 先頭文字として下線 () は使用できません。
- USERS、ADMINS、GUESTS、PUBLIC、LOCAL は、大文字小文字の別に関係なく、ユーザー ID として使用できません。

- IBM、SQL、SYS は、大文字小文字の別に関係なく、ユーザー ID の先頭の 3 文字として使用できません。

第 2 章 インストール前の要件

このセクションでは、WebSphere Commerce - Express をインストールする前に実行しておくことの必要なステップについて説明します。

ここで説明されているステップを実行するには、root ユーザー・アクセスが必要です。

重要

正常にインストールするためには、ここで説明するインストールの前提となるすべてのステップを実行しなければなりません。

知識に関する要件

WebSphere Commerce - Express をインストールおよび構成するには、以下のことに関する知識が必要です。

- 使用するオペレーティング・システム
- インターネット
- Web サーバーの運用と保守
- IBM DB2 Universal Database
- オペレーティング・システムの基本的なコマンド

ストアを作成しカスタマイズするには、以下のことに関する知識が必要です。

- WebSphere Application Server
- IBM DB2 Universal Database
- HTML および XML
- 構造化照会言語 (SQL)
- Java のプログラミング

ストアフロントおよびストア・データ資産の開発については、「*WebSphere Commerce* ストア開発ガイド」を参照してください。ビジネス・ロジック (またはバック・オフィスのビジネス・ロジック) の開発またはカスタマイズについては、「*WebSphere Commerce* プログラミング・ガイドとチュートリアル」の資料を参照してください。

前提条件となるハードウェア

WebSphere Commerce - Express をインストールする前に、以下の最低限のハードウェア要件を満たしていることを確認してください。

Intel® プロセッサ・ベースのシステムで Linux を実行する場合の前提条件となるハードウェア

専用の Intel Pentium® III 733 MHz (実稼働環境ではそれ以上を推奨) の IBM 互換パーソナル・コンピューターで、以下のハードウェアを備えたもの。

- プロセッサ当たり 1 GB 以上のランダム・アクセス・メモリー (RAM)
これは、初期の WebSphere Commerce インスタンスと、それに関連した WebSphere Commerce Payments インスタンス用に必要です。1 つの WebSphere Commerce インスタンスおよび関連する WebSphere Commerce Payments インスタンスを追加するごとに、プロセッサ当たり 512 MB の RAM を追加する必要があります。
- 4 GB 以上の空きディスク・スペース
- プロセッサ当たり 1 GB 以上のページング・スペース
これは、初期の WebSphere Commerce インスタンスと、それに関連した WebSphere Commerce Payments インスタンス用に必要です。1 つの WebSphere Commerce インスタンスおよび関連する WebSphere Commerce Payments インスタンスを追加するごとに、プロセッサ当たり 1 GB のページング・スペースを追加する必要があります。
- CD-ROM ドライブ
- グラフィックス表示可能モニター
- TCP/IP をサポートするローカル・エリア・ネットワーク (LAN) アダプター

前提条件となるソフトウェア

WebSphere Commerce をインストールする前に、以下の最低限のソフトウェア要件を満たしていることを確認してください。

- Windows マシン (Internet Explorer バージョン 6.0 (フル・バージョン) 以降を装備) が、WebSphere Commerce のインストール先マシンと同じネットワーク上で使用できることを確認します。Internet Explorer は WebSphere Commerce ツールにアクセスするために必要です。

Intel ベースのシステムで Linux を実行する場合の前提条件となるソフトウェア

WebSphere Commerce は、以下のいずれかのオペレーティング・システムを必要としません。

- Red Hat Enterprise Linux AS (以前の Red Hat Linux Advanced Server) バージョン 2.1

以下のパッケージがシステム上で利用できるようにします。

- pdksh-5.2.14-13
- ncurses-5.2-12
- SuSE Linux Enterprise Server 8

以下のパッケージがシステム上で利用できるようにします。

- pdksh-5.2.14-532
- ncurses-5.2-402

以下のコマンドを発行して、使用可能度をチェックすることができます。

```
rpm -qa | grep package_name
```

WebSphere Commerce のインストールに進む前に、これらのパッケージがインストールされていない場合は、インストールする必要があります。

Netscape Web ブラウザーがインストールされていることを確認します。 Netscape Web ブラウザーは、WebSphere Commerce - Express のインストール前に表示される LaunchPad から得られる情報を表示するために必要です。

その他の要件

WebSphere Commerce をインストールする前に、さらに、以下のことを実行することが必要です。

- WebSphere Commerce をインストールする前に、すべての Lotus® Notes® サーバー、Web サーバー、Java アプリケーション・サーバー、およびすべての必須ではない Java プロセスが停止していることを確認します。
- WebSphere Commerce をインストールする前に、他のすべての InstallShield MultiPlatform インストーラーが完了または停止していることを確認してください。
- 次のユーザー ID が存在しないことを確認します。db2fwc1、daswc1。
- 次のユーザー・グループが存在しないことを確認します。db2fwcg1、daswcg1。
- WebSphere Commerce では IP アドレスとホスト名の両方が使用されるため、システムの IP アドレスがホスト名に対応付けされていなければなりません。 IP アドレスを判別するには、コマンド・ウィンドウを開いて次のように入力します。

```
nslookup host_name
```

正しい IP アドレスからの応答があればよいということになります。

- WebSphere Commerce - Express をインストールするマシンの完全修飾ホスト名を ping することによって、システムがネットワーク内の他のコンピューターからアクセスできることを確認してください。
- ホスト名がドメイン付きで完全修飾されていることを確認します。

- Web サーバーのホスト名に下線 (_) が含まれないようにしてください。 IBM HTTP Server は、ホスト名に下線が含まれるマシンをサポートしていません。
- 以下のいずれかのポートを使用する Web サーバーがインストールされている場合、 WebSphere Commerce をインストールする前に Web サーバーを使用不可にします。
 - 80
 - 443
 - 5432
 - 5433
 - 8000
 - 8002
 - 9090
 - 8004
- Apache Web サーバーがシステムにインストールされている場合は、それをアンインストールしてください。 Apache がシステムにインストールされているかどうかを調べるには、コマンド・プロンプトから以下のコマンドを実行してください。

```
rpm -qa|grep apache
```

システム上にある Apache パッケージのリストが表示されます。それらのパッケージをアンインストールするには、表示されるパッケージごとに以下のコマンドを実行します。

```
rpm -e --nodeps package_name
```

package_name は、最初のコマンドの出力に表示されたとおりの名前です。
- WebSphere Commerce インストール・ウィザードの完了後に、使用可能な WebSphere Commerce 情報を表示するには、WebSphere Commerce のインストール先のマシン上に Web ブラウザーがなければなりません。

パス変数

本書では、以下の変数がパスに使用されます。

DB2_installdir

これは、DB2 Universal Database のインストール・ディレクトリーです。デフォルトのインストール・ディレクトリーは `opt/IBM/db2/V8.1` です。

HTTPServer_installdir

これは、IBM HTTP Server のインストール・ディレクトリーです。デフォルトのインストール・ディレクトリーは `/opt/WebSphere/IBMHttpServer` です。

WAS_installdir

これは、WebSphere Application Server のインストール・ディレクトリーです。
WebSphere Application Server のデフォルトのインストール・ディレクトリーは、`/opt/WebSphere/AppServer` です。

WC_installdir

これは、WebSphere Commerce のインストール・ディレクトリーで、すべての WebSphere Commerce プロプラエタリー・データが含まれています。
WebSphere Application Server のデフォルトのインストール・ディレクトリーは、`/opt/WebSphere/CommerceServer55` です。

第 3 章 推奨トポロジー

この章では、WebSphere Commerce - Express コンポーネントの推奨トポロジーと、データベース・サーバーや Web サーバーなどのサポート対象ソフトウェアについて説明します。この章で説明しているトポロジーは、WebSphere Commerce - Express で最も一般的に使用されるものですが、WebSphere Commerce - Express のそれ以外のトポロジーも引き続き使用可能です。

すべてのトポロジーで、すべてのノードは同じレベルの同じオペレーティング・システムを実行している必要があります。これには、WebSphere Commerce - Express で必要とされるすべてのパッチ、リビジョン、サービス・パック、またはフィックス・パックが含まれます。

この章では、以下の用語を使用しています。

データベース・ノード

WebSphere Commerce - Express が使用するデータベース・サーバーだけを含むトポロジーのノード。

Web サーバー・ノード

WebSphere Commerce - Express が使用する Web サーバーだけを含むトポロジーのノード。

WebSphere Commerce ノード

WebSphere Commerce サーバーを含むトポロジーのノード。ノードにはデータベース・サーバーまたは Web サーバーが含まれる場合もありますが、トポロジーに応じて、ノードに WebSphere Commerce サーバーが含まれている場合、それは WebSphere Commerce ノードと呼ばれます。

1 ノード・トポロジー

1 ノード・トポロジーでは、すべての WebSphere Commerce - Express コンポーネントおよびサポート対象ソフトウェアが単一のノード上にインストールされます。これには、データベース・サーバー、Web サーバー、WebSphere Application Server、WebSphere Commerce Payments、および WebSphere Commerce サーバーが含まれます。

1 ノード・トポロジーでの WebSphere Commerce - Express のインストール

WebSphere Commerce を 1 ノード・トポロジーでインストールする場合、以下の 2 つのオプションがあります。

高速インストール

マシンが以下の基準を満たしている場合、WebSphere Commerce - Express を 1 ノード・トポロジーでインストールするには、WebSphere Commerce - Express インストール・ウィザードの高速インストール・オプションしか使用できません。

- WebSphere Commerce のいずれのバージョンまたはエディションもマシンにインストールされていない。
- DB2 Universal Database のいずれのバージョンまたはエディションもマシンにインストールされていない。
- WebSphere Application Server のいずれのバージョンまたはエディションもマシンにインストールされていない。
- IBM HTTP Server のいずれのバージョンまたはエディションもマシンにインストールされていない。

高速インストール時には、WebSphere Commerce Payments コンポーネントをインストールしないことを選択できますが、他のすべての WebSphere Commerce コンポーネントおよびサポート対象ソフトウェアはインストールされます。

高速インストールでは、すべてのコンポーネントおよびサポート対象ソフトウェアのインストール後に、WebSphere Commerce インスタンスが作成されます。WebSphere Commerce Payments のインストールを選択した場合、WebSphere Commerce Payments インスタンスが作成されます。

高速インストールの実行の手順は、「*WebSphere Commerce - Express* クイック・スタート」に記載されています。

カスタム・インストール

以下の条件を満たしている場合、WebSphere Commerce - Express を 1 ノード・トポロジーでインストールするには、WebSphere Commerce - Express インストール・ウィザードのカスタム・インストール・オプションを使用できません。

- ノードが、WebSphere Commerce - Express のハードウェア、オペレーティング・システム、およびネットワーキング要件を満たしている。
- データベース・サーバーがノードにインストール済みの場合、そのデータベース・サーバーは、WebSphere Commerce - Express がサポートするデータベース・サーバーであり、WebSphere Commerce - Express が要求するバージョン・レベルである必要があります。
- Web サーバーがノードにインストール済みの場合、その Web サーバーは、WebSphere Commerce - Express がサポートする Web サーバーであり、WebSphere Commerce - Express が要求するバージョン・レベルである必要があります。

IBM HTTP Server がノードにすでにインストールされている場合は、WebSphere Commerce - Express をインストールする前に、ノード上で以下を実行する必要があります。

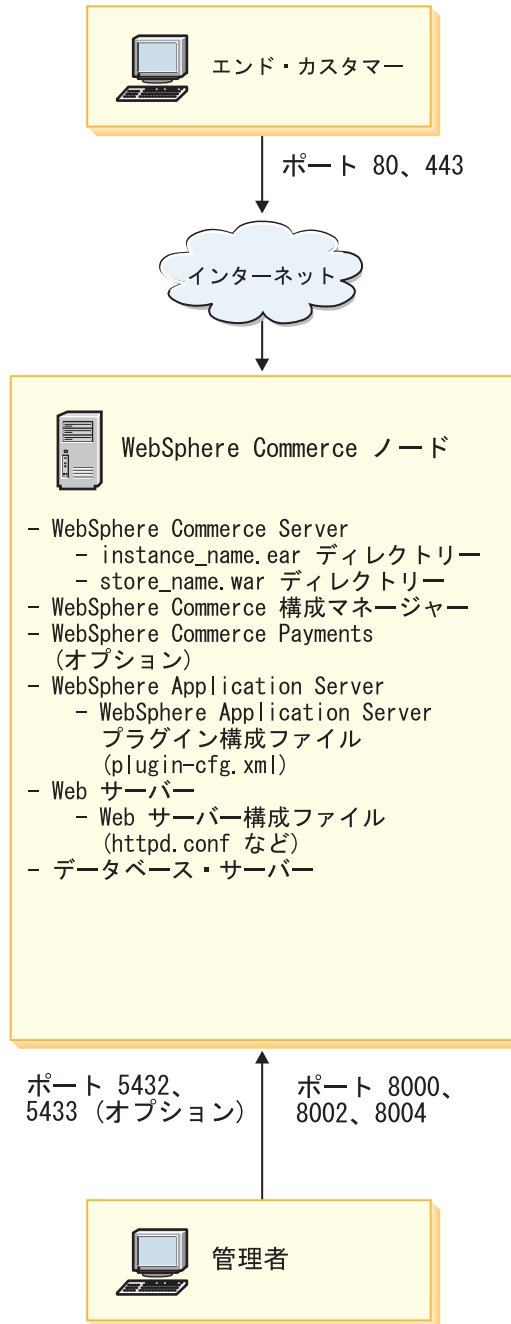
- Web サーバーで SSL を使用可能にする
- WebSphere Application Server をインストールする
- WebSphere Application Server がノードにすでにインストールされている場合には、WebSphere Application Server は WebSphere Commerce - Express がサポートするエディションおよびバージョンの WebSphere Application Server でなければなりません。

WebSphere Application Server バージョン 5.0 またはバージョン 5.0.1 がインストールされている場合、WebSphere Commerce - Express のインストール時に、WebSphere Application Server バージョン 5.0.2 にアップグレードされます。

カスタム・インストールでは、WebSphere Commerce インスタンスまたは WebSphere Commerce Payments インスタンスは作成されません。インスタンスは、インストールの完了後に作成する必要があります。

カスタム・インストールの実行の手順は、「*WebSphere Commerce - Express* インストール・ガイド」に記載されています。

以下の図は、1 ノード・トポロジーを示しています。



注: WebSphere Commerce 構成マネージャーは、GUI クライアントとサーバーの、2 つのコンポーネントで構成されています。構成マネージャー・サーバーおよびクライアントは、必ず WebSphere Commerce Server および WebSphere Commerce Payments と同じノードにインストールされます。

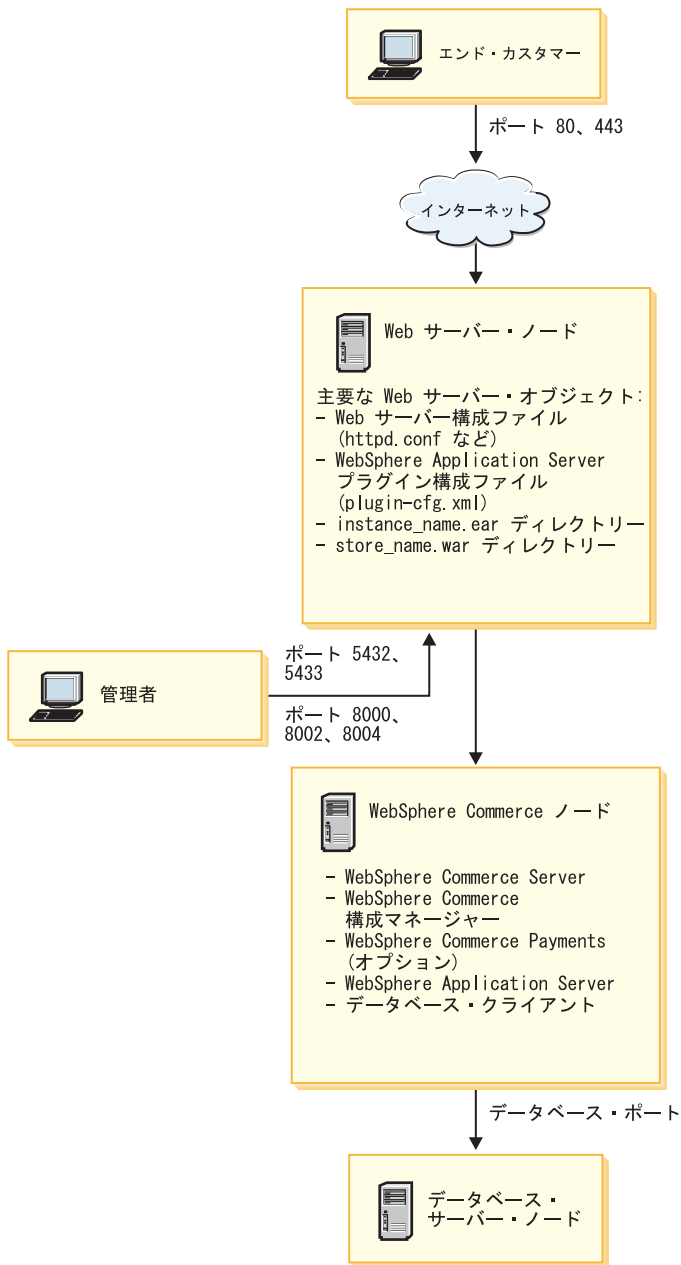
WebSphere Commerce 構成マネージャー・クライアントは、グラフィックスを表示可能な任意のワークステーション上で実行することができます。

WebSphere Commerce 構成マネージャー・クライアントは、インストール・ウィザードのカスタム・インストール・オプションを使用して、別個にインストールすることができます。

3 ノード・トポロジー

3 ノード・トポロジーでは、すべての WebSphere Commerce - Express コンポーネントは 1 ノード上にインストールされ、データベース・サーバーは 2 番目のノード上にインストールされ、Web サーバーは 3 番目のノードにインストールされます。

以下の図は、3 ノード・トポロジーを示しています。



注: WebSphere Commerce 構成マネージャーは、GUI クライアントとサーバーの、2 つのコンポーネントで構成されています。構成マネージャー・サーバーおよびクライ

アントは、必ず WebSphere Commerce Server および WebSphere Commerce Payments と同じノードにインストールされます。

WebSphere Commerce 構成マネージャー・クライアントは、グラフィックスを表示可能な任意のワークステーション上で実行することができます。

WebSphere Commerce 構成マネージャー・クライアントは、インストール・ウィザードのカスタム・インストール・オプションを使用して、別個にインストールすることができます。

3 ノード・トポロジーでの WebSphere Commerce - Express のインストール

WebSphere Commerce - Express を 3 ノード・トポロジーでインストールするには、以下のようにします。

1. 以下の条件が満たされていることを確認します。

- 各ノードが、WebSphere Commerce - Express のハードウェア、オペレーティング・システム、およびネットワーク要件を満たしている。
- データベース・サーバーがデータベース・ノードにインストール済みの場合、そのデータベース・サーバーは、WebSphere Commerce - Express がサポートするデータベース・サーバーであり、WebSphere Commerce - Express が要求するバージョン・レベルである必要があります。
- Web サーバーが Web サーバー・ノードにインストール済みの場合、その Web サーバーは、WebSphere Commerce - Express がサポートする Web サーバーであり、WebSphere Commerce - Express が要求するバージョン・レベルである必要があります。

IBM HTTP Server がノードにすでにインストールされている場合は、WebSphere Commerce - Express をインストールする前に、ノード上で以下を実行する必要があります。

- Web サーバーで SSL を使用可能にする
- WebSphere Application Server Web サーバー・プラグインをインストールする
- WebSphere Application Server PTF 2 を適用する
- 必要な WebSphere Application Server フィックスを適用する
- WebSphere Application Server が WebSphere Commerce ノードにすでにインストールされている場合には、WebSphere Application Server は WebSphere Commerce - Express がサポートするエディションおよびバージョンでなければなりません。

WebSphere Application Server バージョン 5.0 またはバージョン 5.0.1 がインストールされている場合、WebSphere Commerce - Express のインストール時に、WebSphere Application Server バージョン 5.0.2 にアップグレードされます。

- WebSphere Commerce - Express ノードになるマシン上に、Web サーバーまたはデータベース・サーバーがインストールされていないことを確認します。このマシンには、データベース・クライアントをインストールすることは可能です。

Web サーバーまたはデータベース・サーバーが、WebSphere Commerce - Express をインストールする先のマシン上で検出された場合、インストール・ウィザードは、そのマシン上で検出された Web サーバーまたはデータベースを、WebSphere Commerce - Express と共に使用するものと想定します。

2. 必要な場合は、データベース・ノード上にデータベース・サーバーをインストールしてください。

データベース・サーバーをインストールするには、データベース・ノード上でカスタム・インストールを実行して、使用可能なコンポーネントのリストから **DB2 Universal Database** を選択します。

3. 必要な場合は、Web サーバー・ノード上に Web サーバーをインストールしてください。

Web サーバーをインストールするには、Web サーバー・ノード上でカスタム・インストールを実行して、使用可能なコンポーネントのリストから **IBM HTTP Server** および **WebSphere Application Server プラグイン** を選択します。

4. 残りの WebSphere Commerce - Express コンポーネントを WebSphere Commerce ノード上にインストールします。

残りの WebSphere Commerce - Express コンポーネントをインストールするには、WebSphere Commerce ノード上でカスタム・インストールを実行して、使用可能なコンポーネントのリストから以下のコンポーネントを選択します。

- **WebSphere Commerce Server**
- **WebSphere Commerce Payments** (オプション)

WebSphere Commerce Payments のインストールはオプションです。

開発環境トポロジー

WebSphere Commerce 開発環境は、以下のトポロジーをサポートしています。

1 ノード開発トポロジー

このトポロジーでは、WebSphere Commerce 開発環境 のすべてのコンポーネントが単一のノード上にインストールされます。

2 ノード開発トポロジー

このトポロジーでは、データベース・サーバーは 1 ノード上にインストールされ、他のすべての WebSphere Commerce 開発環境 コンポーネントはもう 1 つのノード上にインストールされます。

3 ノード開発トポロジー

このトポロジーでは、データベース・サーバーは 1 ノード上にインストールさ

れ、WebSphere Commerce Payments は 2 番目のノード上にインストールされ、残りの WebSphere Commerce コンポーネントは 3 番目のノードにインストールされます。

3 ノード開発トポロジーは、WebSphere Commerce Payments のフルインストールが必要なので、WebSphere Commerce 開発環境 インストール・ウィザードによって直接にサポートされてはいません。開発環境で実行する WebSphere Commerce Payments は、このトポロジーではサポートされていません。

WebSphere Commerce 開発環境 は、WebSphere Commerce の実動、テスト、およびステージング環境を構成するノードとは別のノードにインストールすることをお勧めします。

開発環境のインストールの手順は、「*WebSphere Commerce - Express Developer Edition* インストール・ガイド」に記載されています。

第 4 章 WebSphere Commerce - Express のインストール

この章では、単一のノード上への WebSphere Commerce - Express のインストールおよび構成の全体を説明しています。このインストールは、以下の条件下で実行する必要があります。

- 同じノード上に以下のコンポーネントをインストールする予定であること、およびそれらのコンポーネントがノード上にプリインストールされていないこと。
 - DB2 Universal Database Express Edition、バージョン 8.1.2
 - IBM HTTP Server、バージョン 1.3.26.2
 - WebSphere Application Server 基本製品、バージョン 5.0.2
 - WebSphere Commerce Server
 - WebSphere Commerce Payments (オプション)

注:

1. WebSphere Commerce インスタンスをインストール先のシステムの言語以外の言語で作成したい場合は、高速インストールは使用できません。

高速インストールが成功すると、demo という名前の WebSphere Commerce インスタンスが作成されます。WebSphere Commerce Payments がインストールされている場合、wpm という名前の WebSphere Commerce Payments が作成されます。

WebSphere Commerce - Express のインストールの前に

このセクションでは、WebSphere Commerce インストール・ウィザードを使用する前に完了しなければならない作業を説明します。WebSphere Commerce インストール・ウィザードを使用する前に、以下を行う必要があります。

1. WebSphere Application Server で必要なユーザー ID とグループを、WebSphere Commerce または WebSphere Commerce Payments をインストールする予定のすべてのマシンで作成します。詳細については、『必要な WebSphere Application Server ユーザーおよびグループの作成』を参照してください。

必要な WebSphere Application Server ユーザーおよびグループの作成

WebSphere Commerce コンポーネント (WebSphere Commerce、WebSphere Commerce Payments、および WebSphere Commerce 構成マネージャー・クライアントなど) をインストールするすべてのマシンで、以下を行います。

1. root でログオンします。
2. root 以外のユーザー ID を作成し、その新しいユーザー ID にパスワードを与えます。

高速インストール・プロセスのインスタンス作成の一部として、WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments アプリケーション・サーバーを開始するために、このユーザー ID が使用されます。

3. 新しいユーザー・グループを作成し、root 以外のユーザー ID をその新しいグループに追加します。

root 以外のユーザー ID、root 以外のユーザーのユーザー・グループ ID、および root 以外のユーザーのホーム・ディレクトリーの絶対パスをメモしてください。この情報は、WebSphere Commerce インストール・ウィザードを完了するために必要になります。

デフォルトでは、WebSphere Commerce インストール・ウィザードは **wasuser** を非 root の WebSphere Commerce ユーザー ID として、**wasgroup** を非 root の WebSphere Commerce ユーザー ID からなるグループ ID としてそれぞれ指定します。このユーザーとグループをそのまま作成することもできますが、別のユーザー ID やグループを作成してインストール・ウィザードのデフォルト値と置き換えることもできます。

4. WebSphere Application Server 組み込みのメッセージング・コンポーネントに必要なユーザー ID とグループを作成します。これらのユーザー ID とグループは、WebSphere Application Server が正常にインストールされるために必要です。

以下のようにして、必要なユーザー ID とグループを作成します。

- a. ユーザー ID mqm を作成し、このユーザー ID にパスワードを与えます。
- b. 以下のユーザー・グループを作成します。
 - mqm
 - mqbrkrs
- c. 以下のユーザーを mqm ユーザー・グループに追加します。
 - mqm
 - root
- d. 以下のユーザーを mqbrkrs ユーザー・グループに追加します。
 - root
- e. ログオフします。
- f. root でログオンして、グループのメンバーシップの変更を有効にします。

ユーザーの作成、ユーザー・グループの作成、およびグループへのユーザーの追加に関する指示については、ご使用のオペレーティング・システムの資料を参照してください。

ユーザーの作成、ユーザー・グループの作成、およびグループへのユーザーの追加の後には、マシンをリブートしてください。

WebSphere Commerce インストール・ウィザードを開始する前にこれらのユーザー ID およびグループが正しくセットアップされていない場合、インストール・ウィザードは、必要なユーザーとグループの存在を検査する時点で停止します。

高速インストールの完了

高速インストールを完了するには、以下のようにします。

1. root でログオンします。
2. 端末セッションから、以下のコマンドを発行します。

```
export DISPLAY=host_name:0.0
```

ここで、*host_name* はインストール・ウィザードを実行するマシンの完全修飾ホスト名です。

注: X クライアントでインストール・ウィザードを実行する場合、*xhost* コマンドを使用して、X クライアントが X サーバーにアクセスする権限を与える必要があるかもしれません。X クライアントに権限を与えるには、システム・コンソールから root として以下のコマンドをします。

```
xhost +host_name
```

ここで、*host_name* はインストール・ウィザードを実行するマシンの完全修飾ホスト名です。

3. WebSphere Commerce - Express CD 1 をノードの CD-ROM ドライブに挿入します。CD-ROM ドライブをマウントします。ただし、ディレクトリーをマウント・ポイントに変更しないでください。ディレクトリーをマウント・ポイントに変更すると、CD ドライブがロックされ、CD を交換できなくなります。
4. WebSphere Commerce - Express LaunchPad を開始するには、以下のコマンドを発行します。

```
mount_point/startRun.sh
```

mount_point は CD-ROM のマウント・ポイントです。たとえば /mnt/cdrom0 などとなります。

5. WebSphere Commerce - Express LaunchPad で使用する言語を選択し、「OK」をクリックして継続します。

注: 言語は各国語バージョンの WebSphere Commerce - Express の場合のみ選択可能であり、英語バージョンでは選択できません。

LaunchPad は以下のオプションを提供しています。

ReadMe ファイル (ReadMe File)

このオプションは WebSphere Commerce - Express README ファイルを表示します。

クイック・スタート (Quick Beginnings Guide)

このオプションは、Adobe Acrobat Reader が LaunchPad を実行するシステム上にインストールされていれば、この資料の PDF バージョンを開きます。

インストール製品 (Install Product)

このオプションは WebSphere Commerce - Express インストール・ウィザードを開始します。

製品ライブラリー (Product Library)

このオプションは、WebSphere Commerce ライブラリー Web サイトを表示するデフォルトの Web ブラウザーをオープンします。

サポート (Support)

このオプションは、WebSphere Commerce サポート Web サイトを表示するデフォルトの Web ブラウザーをオープンします。

終了 (Exit)

このオプションは LaunchPad を終了します。

「製品のインストール (Install Product)」をクリックして、インストール・ウィザードを開始します。

6. まだインストール・ウィザードを LaunchPad から開始していない場合は、以下のコマンドのいずれかを発行します。

```
mount_point/setup_linux
```

または

```
mount_point/setup_linux -console
```

`mount_point` は CD-ROM のマウント・ポイントです。たとえば、`/mnt/cdrom0` とします。

`-console` パラメーターを使用すると、テキスト・ベースのインストール・ウィザードが開始します。テキスト・ベースのインストール・ウィザードでのステップと、GUI ベースのインストール・ウィザードでのステップは同じですが、選択オプションの方法とインストール・ウィザードを継続する方法は異なります。

このセクションでは、GUI ベースのインストール・ウィザードでのオプションの選択および継続についての指示のみが載せられています。テキスト・ベースのインストール・ウィザードを使用する際にオプションを選択して継続するには、テキスト・ベースのインストール・ウィザードで提供されるプロンプトに従ってください。

7. 各国語バージョンの場合のみ、インストール言語を選択して、「OK」を選択します。システムの言語設定に関係なく、ソフトウェアはこの言語でインストールされます。

重要: ここで選択した言語は、WebSphere Commerce インスタンスのデフォルトの言語になります。ここで選択したものと異なるデフォルトの言語で WebSphere Commerce インスタンスを作成しようとすると、WebSphere Commerce インスタンスには無効データが取り込まれます。

英語バージョンの場合、この選択パネルは表示されず、インストール言語はデフォルトでは英語 (en_US) です。

8. 初期画面を読んでから、「次へ」を選択します。
9. 使用条件の条項を読みます。使用条件の条項に同意する場合は、同意することを選択して、「次へ」を選択します。
10. インストール・タイプを選択することが求められたら、「高速インストール」を選択して、「次へ」を選択します。
11. デフォルトの宛先ディレクトリーを受け入れるか、あるいは他のディレクトリーを入力し、「次へ」を選択します。

デフォルト宛先ディレクトリーを受け入れる場合、WebSphere Commerce - Express コンポーネントは以下のパスにインストールされます。

DB2 Universal Database

/opt/IBM/db2/V8.1

IBM HTTP Server

/opt/WebSphere/IBMHttpServer

WebSphere Application Server

/opt/WebSphere/AppServer

WebSphere Commerce

/opt/WebSphere/CommerceServer55

存在しないディレクトリーを入力すると、ディレクトリーを作成するかどうか尋ねられます。

12. WebSphere Commerce Payments をインストールするかどうかを選択して、「次へ」をクリックします。

WebSphere Commerce Payments をインストールしないよう選択した場合、WebSphere Commerce インストール・ウィザードの「カスタム・インストール」オプションを使用して、後で WebSphere Commerce Payments をインストールできます。詳細については、「WebSphere Commerce - Express インストール・ガイド」を参照してください。

注: WebSphere Commerce - Express で FashionFlow サンプル・ストアを発行することを計画している場合、WebSphere Commerce Payments をインストールする必要があります。FashionFlow サンプル・ストアの詳細については、「WebSphere Commerce サンプル・ストア・ガイド」を参照してください。

WebSphere Commerce Payments は、ExpressStore.sar ストア・アーカイブ・ファイルの発行には不要です。Express ストアの詳細については、「*WebSphere Commerce - Express* スタートアップ・ガイド」を参照してください。

13. 以下の情報を入力します。

データベース・ユーザー ID

DB2 Universal Database に割り当てるユーザー ID を入力します。このユーザー ID は、WebSphere Commerce の実行時に WebSphere Commerce がデータベースにアクセスするために使用されます。

これは既存のオペレーティング・システム ID であってはなりません。

データベース・ユーザー・パスワード

データベース・ユーザー ID と関連したパスワードを入力します。

データベース・ユーザー・グループ (Database user group)

データベース・ユーザー ID を割り当てる対象のユーザー・グループを入力します。

これは既存のオペレーティング・システム・グループであってはなりません。

データベース・ユーザー・ホーム・ディレクトリー

データベース・ユーザーのホーム・ディレクトリーの絶対パスを入力します。

これは、既存のディレクトリーであってはなりません。

「次へ」をクリックして先に進みます。

14. WebSphere Commerce Payments のインストールを選択した場合は、以下の情報を入力します。

WebSphere Commerce Payments インスタンス・パスワード

これは、WebSphere Commerce Payments データベースに保管されている機密データを暗号化解除するために、WebSphere Commerce Payments で使用されるパスワードです。

WebSphere Commerce Payments インスタンス・パスワードは以下の基準を満たしている必要があります。

- 少なくとも 8 つの文字を含まなければならない
- 少なくとも 1 つの数字 (0-9) を含まなければならない
- 少なくとも 1 つの英字 (a-z, A-Z) を含まなければならない
- 4 つの文字を連続して使用することはできない

「次へ」をクリックして先に進みます。

15. 以下の情報を入力します。

サイト管理者 ID

WebSphere Commerce サイト管理者の ID を入力します。この ID は、WebSphere Commerce アクセラレーター、管理コンソール、および組織管理コンソールにアクセスするために必要です。また、この ID は WebSphere Commerce Payments 管理者役割に割り当てられます。

重要: WebSphere Commerce のインストール時に入力したサイト管理者 ID とパスワードを忘れないでください。この ID とパスワードがないと、WebSphere Commerce アクセラレーター、管理コンソール、または組織管理コンソールにアクセスできなくなります。

サイト管理者パスワード

サイト管理者のパスワードを入力します。サイト管理者パスワードには少なくとも 8 文字が使われていなければなりません。

マーチャント鍵

以下の基準を満たす 16 桁の 16 進数を入力します。

- 少なくとも 1 つの数字 (0-9) を含まなければならない
- 少なくとも 1 つの英字 (a-f) を含まなければならない

重要: マーチャント鍵は大文字は無効です。

- 4 つの文字を連続して使用することはできない

16 進数には次の数字および文字だけを含めることができます。 0、1、2、3、4、5、6、7、8、9、a、b、c、d、e、f。

マーチャント鍵は暗号鍵として WebSphere Commerce 構成マネージャーで使用されます。「マーチャント鍵」フィールドに自分のキーを入力する必要があります。入力するキーは、サイトを保護できるものでなければなりません。ストアを作成した後、データベース更新ツールを使用してのみ、このキーを変更できます。このツールを使用するには、WebSphere Commerce インスタンスのデータベース・ノードに進み、構成マネージャーにアクセスし、データベース・ノードを右マウス・ボタン・クリックして、「データベース更新ツールの実行 (Run Database Update Tool)」を選択します。

「次へ」をクリックして先に進みます。

16. インストールするドキュメンテーションの言語を選択してから、「次へ」をクリックして先に進みます。
17. 以下の情報を入力します。

root 以外のユーザー ID

WebSphere Commerce インストール・ウィザードを開始する前に作成した root 以外のユーザーの ID を入力します。

root 以外のユーザー・グループ

root 以外のユーザー ID と関連したユーザー・グループを入力します。

root 以外のユーザー・ホーム・ディレクトリー

root 以外のユーザーのホーム・ディレクトリーの絶対パスを入力します。

「次へ」をクリックして先に進みます。

18. インストールの選択内容を確認し、「次へ」を選択します。
選択内容を変更するには、「戻る」を選択します。
19. 表示されるプロンプトに従って、WebSphere Commerce インストーラーが求める CD を挿入してマウントします。
進行状況表示バーにより、インストールの完了状況が示されます。
20. インストールが完了したことを示すメッセージを含むパネルが表示されたら、「次へ」を選択します。「インストール完了」パネルが表示されます。
21. 「インストール完了」パネルを確認します。「終了 (Finish)」をクリックして、インストール・ウィザードを終了します。

インストールの検証

WebSphere Commerce - Express およびそのコンポーネントのインストール中に、ログ・ファイルが生成されます。以下のログ・ファイルを調べて、インストールが成功したことを確認してください。

- 『WebSphere Commerce - Express インストール・ログ』
- 35 ページの『DB2 Universal Database インストール・ログ』
- 35 ページの『WebSphere Application Server インストール・ログ』
- 36 ページの『WebSphere Commerce インスタンス作成ログ』

WebSphere Commerce - Express インストール・ログ

このログには、WebSphere Commerce -Express インストール・ウィザードによって生成されたメッセージが含まれています。このログ・ファイルのデフォルト位置は次のとおりです。

```
WC_installdir/logs/install_date_time.log
```

WC_installdir のデフォルト値は、14 ページの『パス変数』にリストされています。

このログを確認して、WebSphere Commerce - Express のすべてのコンポーネントが正常にインストールされていることを確かめてください。

次のメッセージがログ・ファイル内にある場合、WebSphere Commerce - Express のインストールは完了しています。

```
WebSphere Commerce - Express installation Complete.
```


DB2 Universal Database インストール・ログ

このログには、DB2 Universal Database のインストール中に生成されたメッセージが含まれています。このログ・ファイルのデフォルト位置は次のとおりです。

```
WC_installdir/logs/db2setup.log
```

WC_installdir のデフォルト値は、14 ページの『パス変数』にリストされています。

ログ・ファイルの末尾近くの Installation セクションにリストされているすべてのコンポーネントが SUCCESS 状況になっている場合、DB2 Universal Database は正常にインストールされています。例として、ここでは、標準的な単一ノード・インストールまたは高速インストールによって生成された DB2 Universal Database インストール・ログ・ファイルの「Installation」セクションを示します。

```
.
.
.
Installing DB2 file sets:.....Success
Registering DB2 licenses:.....Success
Setting default global profile registry variables:.....Success
Creating the DB2 Administration Server:.....Success
Initializing instance list:.....Success
Customizing DB2 instance configuration:.....Success

Command to be run:
"/opt/IBM/db2/V8.1/instance/db2icrt -a server -s wse -u db2fwcl -p db2c_db2inst1 db2inst1".
The instance "db2inst1" has been created successfully.

The value "SVCENAME=db2c_db2inst1" was set in the DBM CFG file for the "db2inst1" instance.

The value "DB2AUTOSTART=YES" was set in the Profile Registry for the "db2inst1" instance.

Creating DB2 instances:.....Success
Registering DB2 licenses:.....Success
Configuring the DB2 Administration Server:.....Success
Updating global profile registry:.....Success

DB2 Setup log file finished at: date time
```

実際のログ・ファイルの内容は異なっている場合があります。

DB2 Universal Database インストールの「Installation」セクションに、FAILURE 状況のコンポーネントが含まれている場合、インストール・ログを注意深く調べて、インストール時にエラーが発生した場所を確認します。発生したエラーを訂正するために、DB2 Universal Database ドキュメンテーションを参照してください。

本書にある指示を継続する前に、DB2 Universal Database インストール・エラーを訂正してください。

WebSphere Application Server インストール・ログ

このログには、WebSphere Application Server のインストール中に生成されたメッセージが含まれています。このログ・ファイルのデフォルト位置は次のとおりです。

WAS_installdir/logs/log.txt

WAS_installdir のデフォルト値は、14 ページの『パス変数』にリストされています。

次のメッセージがログ・ファイル内にある場合、WebSphere Application Server のインストールは完了しています。

INSTFIN: The WebSphere 5.0 install is complete.

WebSphere Commerce インスタンス作成ログ

WebSphere Commerce のインストール時のインスタンス作成により、以下のログ・ファイルが作成されます。

- auction.log
- createdb.log
- createdb.db2.log
- createdb.production.log
- createsp.log
- createsp.err.log
- EnterpriseApp.log
- GenPluginCfg.log
- populatedb.err.log
- populatedb.log
- populatedb2.err.log
- populatedb2.log
- populatedbnl.log
- populatedbnl.err.log
- reorgdb2.log
- reorgdb2.err.log
- sec_check.log
- trace.txt
- WASConfig.log
- WASConfig.err.log

ファイルは次のディレクトリーにあります。

WC_installdir/instances/demo/logs

WC_installdir のデフォルト値は、14 ページの『パス変数』にリストされています。

前にリストされているログ・ファイルにエラーまたは例外が含まれておらず、上記のリストにある以下のログが空になっている場合、インスタンス作成は正常に行われています。

- createsp.err.log
- populatedb.err.log
- populatedb2.err.log
- populatedbni.err.log
- reorgdb2.err.log (このファイルはエラーがある場合にのみ作成されます)
- WASConfig.err.log

また、以下のログの内容を確認して、エラーがないことを確かめてください。

- createdb.log
- createdb.db2.log

インスタンス作成が失敗した場合、「*WebSphere Commerce - Express* インストール・ガイド」にある指示に従って、*WebSphere Commerce* インスタンスを手動で作成することができます。

次のステップ

WebSphere Commerce - Express をインストールし、インストールを検証した後は、「*WebSphere Commerce - Express* スタートアップ・ガイド」の説明に従って、*WebSphere Commerce - Express* の構成と *Express* ストアの作成を続けます。

第 5 章 WebSphere Commerce - Express コンポーネント

WebSphere Commerce - Express コンポーネントは、それがインストールされたのと逆の順序でアンインストールする必要があります。 WebSphere Commerce - Express コンポーネントのアンインストールは、以下の順序で実行します。

1. WebSphere Commerce 構成マネージャー・クライアント、WebSphere Commerce 構成マネージャー・サーバーとは別のノード上にインストールされている場合。
2. WebSphere Commerce - Express、WebSphere Commerce Payments、および WebSphere Commerce 構成マネージャー・サーバーとクライアント
他のコンポーネントをアンインストールする前に、これらのコンポーネントは、そのインストール先のすべてのノードから除去しておく必要があります。
3. WebSphere Application Server
4. IBM HTTP Server
5. DB2 Universal Database

注: 上記のコンポーネントのアンインストールの詳細な手順については、「*WebSphere Commerce - Express インストール・ガイド*」を参照してください。インストールが失敗した場合は、すべてのコンポーネントをアンインストールして、インストールしなおすことが必要になる場合があります。

WebSphere Commerce - Express、WebSphere Commerce Payments、または WebSphere Commerce 構成マネージャー・クライアントのアンインストール

WebSphere Commerce、WebSphere Commerce Payments、または WebSphere Commerce 構成マネージャー・クライアントのアンインストールについては、「*WebSphere Commerce - Express インストール・ガイド*」を参照してください。この資料は、以下の WebSphere Commerce ライブラリーから入手可能です。

<http://www.ibm.com/software/commerce/library/>

WebSphere Application Server のアンインストール

WebSphere Application Server のアンインストールについては、「*IBM WebSphere Application Server Version 5 Getting Started*」を参照してください。この資料は、以下の WebSphere Application Server ライブラリーから入手可能です。

<http://www.ibm.com/software/webservers/appserv/was/library/>

IBM HTTP Server のアンインストール

IBM HTTP Server が WebSphere Application Server と同じノード上にインストールされている場合、IBM HTTP Server は WebSphere Application Server のアンインストール時に自動的にアンインストールされます。

IBM HTTP Server のアンインストールについては、以下の URL から入手できる、IBM HTTP Server V1.3.26 powered by Apache インストール・ファイルを参照してください。

<http://www.ibm.com/software/webservers/httpservers/library.html>

DB2 Universal Database のアンインストール

DB2 Universal Database のアンインストールについては、「*IBM DB2 Universal Database Quick Beginnings for DB2 Universal Database Express Edition*」(GC09-7851-00)を参照してください。この資料は、以下の DB2 Universal Database ライブラリーから入手可能です。

http://www.ibm.com/cgi-bin/db2www/data/db2/udb/winos2unix/support/v8pubs.d2w/en_main

注: WebSphere Commerce に付属の DB2 Universal Database CD には .tar ファイルが収録されています。DB2 Universal Database 資料の手順に従うには、CD の内容を一時ロケーションに `untar` する必要があります。DB2 Universal Database CD から実行するすべてのコマンドは、代わりにこの一時ロケーションから実行します。DB2 Universal Database のアンインストール後に、この一時ロケーションを削除します。

第 6 章 情報の入手場所

WebSphere Commerce システムとそのコンポーネントに関するさらに詳しい情報は、さまざまな情報源からさまざまな形式で入手できます。この後の部分では、利用できる情報と利用方法を示します。

WebSphere Commerce の情報

以下は、WebSphere Commerce に関する情報源です。

- WebSphere Commerce オンライン・ヘルプ
- WebSphere Commerce テクニカル・ライブラリー

WebSphere Commerce オンライン・ヘルプ

WebSphere Commerce のオンライン情報は、WebSphere Commerce のカスタマイズ、管理、および再構成に関する主要な情報源です。WebSphere Commerce のインストール後、以下の URL にアクセスすることによって、オンライン情報のトピックを利用できます。

`https://host_name:8000/wchelp/`

host_name は、WebSphere Commerce のインストール先マシンの完全修飾 TCP/IP ホスト名です。

WebSphere Commerce テクニカル・ライブラリー

WebSphere Commerce のテクニカル・ライブラリーは、以下の URL にあります。

`http://www.ibm.com/software/commerce/library/`

このマニュアル (すべてのアップデート・バージョンを含む) は、WebSphere Commerce Web サイトの「Library」セクションから PDF ファイル形式で入手できます。さらに、新しいドキュメンテーションや更新されたドキュメンテーションを、この WebSphere Commerce テクニカル・ライブラリー Web サイトから入手できる場合もあります。

WebSphere Commerce Payments の情報

WebSphere Commerce Payments のヘルプを表示するには、次のヘルプ・アイコンをクリックしてください。



このヘルプ・アイコンは、WebSphere Commerce 管理コンソールおよび WebSphere Commerce アクセラレーター内の WebSphere Commerce Payments ユーザー・インターフェース、および以下の URL にあるスタンドアロンの WebSphere Commerce Payments ユーザー・インターフェースに表示されます。

`http://host_name:http_port/webapp/PaymentManager`

または

`https://host_name:ssl_port/webapp/PaymentManager`

変数は以下のように定義されます。

host_name

WebSphere Commerce Payments に関連した Web サーバーの完全修飾 TCP/IP ホスト名。

http_port

WebSphere Commerce Payments によって使用される HTTP ポート。デフォルトの HTTP ポートは 5432 です。

ssl_port WebSphere Commerce Payments によって使用される SSL ポート。デフォルトの SSL ポートは 5433 です。

WebSphere Commerce Payments が SSL 対応である場合、どちらの URL でも使うことができます。WebSphere Commerce Payments が SSL 非対応である場合、非セキュア URL (`http`) しか使えません。

ヘルプは以下の URL でも使用可能です。

`http://host_name:http_port/webapp/PaymentManager/language/docenter.html`

または

`https://host_name:ssl_port/webapp/PaymentManager/language/docenter.html`

変数は以下のように定義されます。

host_name

WebSphere Commerce Payments に関連した Web サーバーの完全修飾 TCP/IP ホスト名。

http_port

WebSphere Commerce Payments によって使用される HTTP ポート。デフォルトの HTTP ポートは 5432 です。

ssl_port WebSphere Commerce Payments によって使用される SSL ポート。デフォルトの SSL ポートは 5433 です。

language

ヘルプ・ページが表示される言語の言語コード。ほとんどの言語では、2 文字

です。言語コードは以下のとおりです。

言語	コード
ドイツ語	de
英語	en
スペイン語	es
フランス語	fr
イタリア語	it
日本語	ja
韓国語	ko
ポルトガル語 (ブラジル)	pt
中国語 (簡体字)	zh
中国語 (繁体字)	zh_TW

WebSphere Commerce Payments および Payments Cassettes の詳細については、以下の WebSphere Commerce Technical Library をご覧ください。

<http://www.ibm.com/software/commerce/library/>

IBM HTTP Server の情報

IBM HTTP Server についての情報は、以下の IBM HTTP Server Web サイトをご覧ください。

<http://www.ibm.com/software/webservers/httpservers/>

ドキュメンテーションは、HTML 形式、PDF ファイル、あるいはその両方で入手できます。

WebSphere Application Server の情報

WebSphere Application Server についての情報は、以下の WebSphere Application Server InfoCenter サイトをご覧ください。

<http://www.ibm.com/software/webservers/appserv/infocenter.html>

DB2 Universal Database の情報

HTML ドキュメンテーション・ファイルは `/doc/locale/html` サブディレクトリーにあります。ただし、`locale` はロケールの言語コードです (たとえば、米国英語の場合は `en`)。各国語で入手できないドキュメンテーションは、英語で表示されます。

DB2 の追加情報は、以下の DB2 Technical Library で入手できます。

<http://www.ibm.com/software/data/db2/library/>

その他の IBM 出版物

ほとんどの IBM 出版物は、IBM 認定販売業者または IBM の営業担当員にお問い合わせいただくことにより、購入できます。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものであり、米国以外の国においては本書で述べる製品、サービス、またはプログラムを提供しない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-0032
東京都港区六本木 3-2-31
IBM World Trade Asia Corporation
Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。

IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。

国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム（本プログラムを含む）との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

*IBM Canada Ltd.
Office of the Lab Director
8200 Warden Avenue
Markham, Ontario
L6G 1C7
Canada*

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

DB2	DB2 Universal Database	IBM
Lotus	Notes	WebSphere

Pentium は、Intel Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Microsoft および Windows は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。



部品番号: CT2F0JA

Printed in Japan

GC88-9828-00



日本アイ・ビー・エム株式会社
〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12

(1P) P/N: CT2F0JA

